

2017年に輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2017年我が国には、貨物64.6万件、携帯品36.3万件、国際郵便物14.2万件、計115万件的植物類が輸入されている。植物防疫所による輸入検査の結果、これらの植物からは我が国が海外からの侵入を警戒している重要な病害虫が数多く発見されている(下表)。特に、輸入禁止対象病害虫は携帯品・郵便物として輸入される生果実から発見されることが多いことから、植物防疫所では、植物類を輸入する際は、輸出国の検査証明書が必要なこと、植物防疫官による検査が必要なこと、輸入が禁止されている植物があること等、植物検疫制度について周知・啓発を行うとともに、空港等で検査を的確に行えるよう検疫探知犬を導入している。

	病害虫名	発見件数	発見植物	輸出(仕出)国・地域	輸入形態
輸入禁止対象病害虫	<i>Bactrocera dorsalis</i> species complex ミカンコミバエ種群 (297件)		マンゴー生果実、グアバ生果実、トウガラシ生果実、スモモ生果実、パンレイシ生果実、レンブ生果実、その他生果実28種	ベトナム、フィリピン、インドネシア、タイ、中国、スリランカ、台湾、その他11カ国	携帯品・郵便物
	<i>Bactrocera cucurbitae</i> ウリミバエ (14件)		ニガウリ生果実、ササグ生果実、トカドヘチマ生果実、カラスウリ属生果実、モクバツ生果実	フィリピン、タイ、ベトナム、スリランカ、インド、ネパール	携帯品
	<i>Cylas formicarius</i> アリモドキソウムシ (4件)		サツマイモ塊根、サツマイモ茎葉、茶用植物(アリモドキソウムシの混入)	台湾、スリランカ、フィリピン	携帯品
	<i>Ceratitis capitata</i> チチュウカイミバエ (3件)		ザクロ生果実、ナツメ属生果実、ルクマ属生果実	キプロス、モロッコ、ペルー	携帯品・貨物
特定重要病害虫	<i>Elasmopalpus lignosellus</i> モロコシマダラメイガ (7件)		アスパラガス茎葉	ペルー	貨物
	<i>Anastrepha fraterculus</i> ミナミアメリカミバエ (6件)		グアバ生果実、マンゴー生果実	ブラジル、ペルー	携帯品
	<i>Diabrotica undecimpunctata</i> ジュウイチホシウリハムシ (1件)		ロメインレタス茎葉	米国	貨物
	<i>Circulifer tenellus</i> テンサイヨコバイ (1件)		レタス茎葉	米国	貨物
	<i>Lygus lineolaris</i> サビロカスミカメ (1件)		ラズベリー生果実	メキシコ	貨物
重要病害虫	<i>Bactrocera latifrons</i> ナスミバエ (261件)		トウガラシ生果実、ナス属生果実、ナス生果実、トウガラシ属生果実、その他3種	ベトナム、タイ、フィリピン、ネパール、インドネシア、ミャンマー、その他7カ国	携帯品・郵便物
	<i>Heliothis virescens</i> ニセアメリカタバコガ (63件)		アスパラガス茎葉、エンドウ生果実、アジサイ園切花	メキシコ、ペルー、コロンビア	貨物
	<i>Bactrocera coracta</i> セグロモミバエ (48件)		グアバ生果実、ナツメ生果実、レンブ生果実、ナツメ属生果実、アセロラ生果実、マンゴー生果実、その他生果実7種	ベトナム、タイ、ネパール、フィリピン、中国	携帯品
	<i>Liriomyza langei</i> ハモグリバエ科の一種 (36件)		セロリー茎葉、レタス茎葉、エンドウ生果実、ブロッコリー茎葉、ロメインレタス茎葉	米国	貨物
	<i>Pseudococcus calceolariae</i> ガハニコナカイガラムシ (36件)		オレンジ生果実、ブルーベリー生果実、レモン生果実	オーストラリア、チリ、米国	貨物
	<i>Delia radicum</i> キャベツハナバエ (23件)		メキャベツ茎葉、チリメンキャベツ茎葉	オランダ、ベルギー、フランス	貨物
	<i>Uromyces betae</i> テンサイさび病菌 (22件)		テンサイ(ビート)種子、トウジサ属種子、飼料テンサイ種子	フランス、韓国、ニュージーランド、イタリア、ドイツ、米国、スペイン	郵便物・貨物

平成の時代を病害虫情報の1面記事から振り返る

本号で、平成の時代で発行する病害虫情報は最後となることから、平成の時代を本誌の過去の1面記事から振り返ってみたいと思う。

平成の時代に最初に発行した病害虫情報は、1989年3月15日に発行した28号であり、同号の1面記事は「最近における輸入切り花の動向」となっている。同記事では、切り花の輸入量が2億本(2017年の輸入量は21億本)を超えたこと、主な輸入先はタイ、アメリカ合衆国、台湾、オランダ等となっていること等が紹介されている。国際植物検疫に関する記事は、この様な「〇〇の輸入(又は輸出)動向」といった記事が、植物類の輸出入量の増加等に応じて掲載されてきたほか、木材こん包材の植物検疫措置の開始(81号:2007年3月)、国際基準に沿った輸入植物検疫制度の見直し(94号:2011年7月)など、我が国における植物検疫措置の見直しの概要に関する記事が、随時、掲載されている。

一方、国内植物検疫に関する記事は、1989年11月発行の30号で奄美群島全域からウリミバエ根絶、1990年11月発行の33号で沖縄群島からウリミバエ根絶、1993年11月発行の42号で我

が国からウリミバエを根絶との記事があり、ミカンコミバエ種群(昭和の時代の1986年に我が国から根絶を達成)に続いてウリミバエの根絶達成を紹介する記事を掲載している。近年では、ウメ輪紋ウイルスの発生とその対応(99号:2013年3月発行)、奄美大島におけるミカンコミバエ種群の緊急防除(110号:2016年11月発行)などを取り上げている。

このように、本誌では植物防疫に関する様々な情報を発信している。新しい元号となっても、読者の皆様にとって有益な紙面となるよう引き続き努めていきたい。

なお、過去の記事は全て植物防疫所のホームページに掲載しているため、時間があればご覧いただきたい。

発行所 横浜植物防疫所
 発行人 大友 哲也
 編集責任者 塚本 貴敬
 掲載 植物防疫所ホームページ



<http://www.maff.go.jp/pps/j/guidance/pestinfo/index.html>

無断転載禁止